

日販連通信

発行者：日本販売農業協同組合連合会

中塚 敏春

第 26 号
2011 年 8 月 3 日 発行

住所：〒151-0053
東京都渋谷区代々木2-5-5
新宿農協会館
電話：03-3375-6399 Fax：03-3375-6637
Eメール：info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp

【全国の農家の皆様への大切なお願い】

●放射性セシウムを含む肥料・土壌改良資材・ 培土及び飼料の暫定許容値の設定について

8月1日付で標記暫定許容値が農水省から発表されました。

●肥料・土壌改良資材・培土中の放射性セシウムの暫定許容値

肥料・土壌改良資材・培土中に含まれることが許容される最大値は、

400 ベクレル/kg(製品重量)

●飼料中の放射性セシウムの暫定許容値

(1)牛、馬、豚、家きん等用飼料中に含まれることが許容される最大値

300 ベクレル/kg(粗飼料は水分含有量 8 割ベース、その他飼料は製品重量)

●**米ぬか、ふすま、魚粉等**の肥料原料は飼料の原料としても使われている場合が多く、飼料が家畜排せつ物・肥料を経由して農地土壌へ還元され農作物へ吸収されるといった物質循環があること、また、今後、平成 23 年産の飼料米、米ぬか、ふすま、稲わら、油かす等が直接飼料として、又は配合飼料等の原料として使用され、畜産物に放射性セシウムが移行する可能性があることから、飼料全般について、慎重に対処することが必要です。

●**堆肥、肥料、飼料などがすべて暫定許容値以下であることを確認せずに譲渡(有償・無償にかかわらず)できません。**

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/soumu/saigai/shizai.html>

●高濃度の放射性セシウムが含まれる可能性のある堆肥等の施用・生産・流通の自粛を

原発事故に伴う放射性物質の降下の影響で、原発周辺県で水田に放置された稲わらから、高濃度の放射性セシウムが検出されており、この稲わらを給餌された牛のふん尿やふん尿から生産された堆肥が高濃度の放射性セシウムを含有する可能性があります。また、原発周辺県の植物性堆肥原料(樹皮(堆肥用に限る。)、落ち葉、雑草等)から生産された堆肥についても、同様の可能性があります。

これは高濃度の放射性セシウムを含む堆肥を農地土壌に施用すると、土壌中の放射性セシウム濃度が

増加する可能性が高く、そこで生産される農作物の放射性セシウム濃度が食品衛生法の暫定規制値を超過する確率が増大するからです。

このため、農地土壤に堆肥を施用する際には、慎重な対処が必要です。

現在、農林水産省では堆肥中の放射性セシウムの基準の作成をしていますが、この基準が設定されるまでの間、とりあえず、**17都県(注1を参照)で発生した堆肥原料及びこれらを原料とする堆肥については、農地土壤への施用を自粛、堆肥原料及び堆肥の生産・流通の自粛を求めています。**

農家の皆さんや家庭菜園などをされる皆さんは、(1)購入した堆肥などの製造場所などを確認してください。(2)確認ができない場合は、購入店などにお問い合わせください。(3)疑いがある堆肥などは、利用しないでください。

注1)17都県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県及び静岡県)

●米の検査方法が公表されました ～二段階の検査になります。

①予備検査

土壤調査 1000Bq/kg と 0.1 μ Sv/h を超える市町村
米が 200Bq/kg を超えたら重点的な調査対象になります。

②本検査

概ね 15ha に 1 点の検査で、基準値を超えた旧市町村単位で出荷停止となります。

http://www.maff.go.jp/j/soushoku/kaigi_siryo/110803.html

原木椎茸のモニタリングを実施 放射性物質の凝縮による濃度の上昇 水の洗浄で除染効果！！

常陸野産直センター、農民連食品分析センターと日販連が試験

常陸野産直センターから原木椎茸のモニタリング調査の依頼があり、7月31日に農民連食品分析センターの八田所長、日販連、常陸野産直センターなどで現地の計測などを実施し、除染などについて検討しました。

検査の場所は生産者のほだ木の伏せ場2箇所、ハウス、事務所、さらにほだ木や椎茸など約200ポイントの計測に及びました。検査機器は日立アロカ NaI(Tl)シンチレーションサーベイメータ TCS-172 を使いました。



杉の葉で凝縮して伏せ場の線量が高くなった

その結果、意外な汚染原因がわかりました。

八田所長がほだ木置き場の地面をくまなく計測して「杉の枯れ葉があるところが比較的高い」と現場で指摘しました。

そこで、生産者が「ほだ木を伏せる前に杉の葉を集めて置いてあるところがある」と案内され、その場所を計測したところ、異常に高い数値を検出しました。改めて正確な計測を行ったところ、この杉の枯れ葉は今までに経験の無い高い数値でした。

生木の杉の葉を計測しますとこの地域の空間線量をわずかに上回るレベルで、すでに杉の葉に付着した放射性物質は降雨によって洗い流されているものと推測できます。

以上から、ほだ木の置き場が高い線量になった原因は、生木の杉林に当たって付着した放射性物質が杉の葉の細かな葉に付着し、葉の面積が広いために高線量に凝縮されて降雨でほだ木や枯れ葉の杉の葉や落ち葉に付着したものと推測できました。

(7月25日の農水省通達で、牛糞、ふん尿、落ち葉など凝縮して高い線量となったものの圃場への使用自粛を17都県に出しましたが、この判断の元にも通じます。)



ほだ木の皮の部分に放射性物質が付着しています



今回の検査の最大の目的はほだ木の線量とそこから生える椎茸の線量の因果関係とほだ木の放射性物質がほだ木のどこにあるかを追跡することでした。

そもそも椎茸はセシウムを吸い込み高線量になることは良く知られています。今回の検査でも高い線量が計測されました。そこで収穫した椎茸のほだ木の皮の部分と芯の部分をそれぞれおがくずにして計測してみました。その結果、芯の部分はNDで、皮の部分は椎茸の倍の線量となっていることがわかりました。

昨年初めて植菌した若木のほだ木は、皮の部分に放射性物質が付着していることが明らかになりました。

ほだ木は水で洗浄すると除染効果があります

未洗浄のほだ木とこれを水で洗浄した結果は歴然となりました。ほだ木にマジックで印をつけて同じ場所を計測しての結果です。一昼夜ほだ木を水に浸漬した結果はNDで、水による除染効果が確認できました。ほだ木は水洗いが効果的です。浸漬も流水にすれば効果的です。生産者は「今回計測して線量が高かったポイントのほだ木は3回水洗いします」と意気込んでいます。



ほだ木置き場の枯れ葉の除去、清掃も大切です。

今回、ほだ木置き場の地面を5cmほど掘って計測してみましたところ、地表5cmとは比べ物にならないほど低い結果になったこと、杉の枯れ葉を取り除いた地表でもかなり低い結果となったことなどから、これ以上線量を高めないためには、杉の枯れ葉などが再付着しないように、ほだ木置き場から取り除くことが大切です。

農民連食品分析センターの八田所長は「どこにあるかわかったこと、表面にあつて洗えば除染効果があるということは画期的な発見です。椎茸農家に情報提供できると良いですね」と実験の成果を語っていました。また生産者のお母さんは「40年間、原木椎茸にこだわって生産してきた。今回の事態で椎茸生産をやめようと本気で真剣に考えた。でも今日こんなにたくさんの方々の応援をいただいて本当に励まされました。これでおおいばりで生産できるし、消費者に安心してもらえる」と笑顔が戻りました。

東電は全面的に、直ちに補償せよ

8.3 東電抗議行動 原発は「モウ～」いらない

国民、原発事故の被害者までにも負担を求める「原子力損害賠償支援機構法案」が可決





深刻な放射能被害を出している東電がまったく誠意をしめさないなか、農民連(農民運動全国連合会)は8月3日、東京電力本社前で「人々を路頭に迷わせ、東電は悪くないとの居直りは許せない」と抗議と賠償請求行動を行いました。

昨日の参議院東日本大震災特別委員会で「原子力損害賠償支援機構法案」が可決しました。法案は賠償金を確保するために、政府が「支援機構」を設立し、東京電力が機構から資金提供を受ける内容です。資金不足の時は「政府が必要な資金を交付することができる」として国民の税金が使えるようになっています。今後賠償金の電力料金への転嫁や原発事故の被害者が賠償金の一部を支払うという事態も起きかねません。

会場には350名の生産者、消費者が集まり、福島からはバス3台で生産者90名が参加しました。さらに千葉県からは和牛2頭も応援に駆けつけ、稲わらをおいしそうに食べていました。通行人は「牛だ!」とびっくりして、「わらってどれですか?」とも問い合わせしていました。日販連からは7人が参加しました。

みなさまのご意見・ご感想をお待ちしております。 アドレス:info-agricoop@pearl.ocn.ne.jp